

フェルメール全37点のリ・クリエイト作品*を-

*「フェルメール・センター・デルフト」より提供を受けた画像素材を最新技術により、350年前の色彩を求めて美しく再創造。この作業を「re-create」と呼ぶ。

12/24 -1/30富山市民プラザ(2階ギャラリー)

【開館時間】平日:午前10時~午後4時30分(入場は午後4時まで) 土日祝日:午前9時30分~午後5時(入場は午後4時30分まで)

【休館日】2021年12月31日(金)~2022年1月1日(祝)

【観 覧 料】一般・大学生:1,200円(1,000円) *()内は前売および 小・中・高校生: 800円(600円) 20名以上の団体料金

2021年 11月27日母 販売開始

アーツナビ(富山県民会館 富山県教育文化会館 高岡文化ホール 新川文化ホール) 富山大和 5階チケット売場 文苑堂書店 アピア 明文堂書店 チケットぴあ(Pコード685-887) BOOKSなかだ ローソンチケット(Lコード55838) ※当日券 /会場券売所のみで販売



フェルメール展 富山 検索



《真珠の首飾りの少女》 1664年 ベルリン国立美術館蔵

「フェルメール・センター・デルフト」と正式提携

フェルメール光の王国展 in TOYAMA

フェルメールの故郷オランダ・デルフトにある施設「フェルメール・ センター・デルフト」と正式提携。フェルメールの魅力をひもとく さまざまな資料の供給を受けています。



《デルフト眺望》 1660-61年 マウリッツハイス美術館蔵

フェルメール全作品37点の複製画を「re-create」

現在、フェルメール作と認識されている全37作品を、フェルメー ルが描いた当時の色彩を求め、原寸大で鮮やかに再現します。 最新の印刷技術が可能にした、誰もみたことがないフェルメール 絵画の展示をします。



《レースを編む女》 1669-70年 ルーヴル美術館蔵

フェルメールの生涯、画業の秘密を探る豊富な資料展示

画家の生い立ちや、創作にかかわる資料をわかりやすく解説し ます。

作品音声ガイドは宮沢りえさんと小林薫さんが担当

作品解説の音声ガイドのナレーショ ンは宮沢りえさんと小林薫さんが担 当。福岡伸一が本展のために書き下 ろしたオリジナル・シナリオにより、 まったく新しいフェルメールの世界を 紡ぎ出します。









《青衣の女》 1662-64年 アムステルダム国立美術館蔵



フェルメール全作品37点が一堂に会するという魅力。

フェルメールとラピスラズリ

フェルメールの代名詞"フェルメール・ブルー"には、 「ウルトラマリンブルー」という顔料が使用されています。 この「ウルトラマリンブルー」の原材料である半貴石 『ラピスラズリ』はアフガニスタン産の品質が良く、ヨー ロッパまで航路で運ばれたため、"海を越えて運ばれる 青"という意味で「ウルトラマリンブルー」と呼ばれました。 当時は画家本人もしくはアシスタントが手作りで絵具

を作成していました。まず、『ラピスラズリ』を非常に細かく砕き、乳鉢ですりつぶ して粉末状にしたものを溶液に溶かし、上澄みを捨てて純化し、それを植物油脂 で溶くことによって、「ウルトラマリンブルー」は生成されました。『ラピスラズリ』 は当時、金よりも高価な品で「天空の破片」と称されるほどでしたが、フェルメール は同時代の画家たちよりも贅沢にこの顔料を使用しました。

《真珠の耳飾りの少女》のターバン、《牛乳を注ぐ女》のエプロン、《青衣の女》 の薄青色の服がその代表ですが、フェルメールはドレスの下地にまでも「ウルトラ マリンブルー」を使用しています。また、フェルメールは「ウルトラマリンブルー」 を特殊な光の表現にも用いています。たとえば《窓辺で水差しを持つ女》では、 壁に当たる光と窓の部分に用いることで光の透明性を強調しました。これは、 17世紀のオランダ絵画に独特の手法ともいえます。

生活価値創

株式会社 富山市民プラザ

〒930-0084 富山市大手町6-14 TEL 076 (425) 2564

https://www.siminplaza.co.jp/

アクセス

- ■JR富山駅から徒歩15分
- ■セントラム「大手モール」下車1分 ■富山空港からタクシーで約15分
- ■北陸自動車道富山インターから約4km

お問い合せ



TEL 076 (444) 8888 平日 午前10時~午後5時

フェルメール展 富山 検索

